wadai クラブ －学生中心の総合型地域スポーツクラブづくり－

プロジェクトメンバー
（wadai クラブ設立準備委員会）
石川恵美　杉若裕介　松田貴二　森下博友　中尾圭吾　船越奈々　松場浩一　大野山慎二　木瀬伸太郎　児玉友梨　根田智之　定常百恵　瀧本圭太　中田裕子　橋本晃知　藤原優　岩見紗代　内芝夏美　内田百美　大谷智子　木村祐太　末武亜理菜　谷由佳　月森麻由美　廣田祥子　前田敏康　荒木祥生　青木大輔　下迫麻美　関本大　濱田隆男　細田知沙　山下桃子　岩城英里　辻耕平　寺坂将悟　西川慧　宮本雅志

１．目的と目標

○目的

大学で生活していると、グラウンドや体育館など体育施設が使用されていない時間があることに気づく。この施設を有効活用した地域貢献ができないかと考えた結果、総合型地域スポーツクラブに着目した。

総合型地域スポーツクラブとは、主にヨーロッパ諸国等に見られる地域のスポーツクラブの形態で、地域住民が自主的に運営し、子どもから高齢者、障害者までの様々なスポーツを愛好する人々が参加できる総合的なスポーツクラブである。「誰でも」「いつでも」「世代を超えて」「好きなレベルで」「いろいろなスポーツを」楽しめる地域のコミュニティとして、総合型地域スポーツクラブが全国各地で誕生している。[1]

このように、総合型地域スポーツクラブが重視され始め、必要性が高まっている中で、wadai クラブは和歌山大学周辺地域の総合型地域スポーツクラブとして、地域のスポーツの拠点となり、スポーツの振興・普及、様々な世代間でのコミュニケーションや地域の活性化を図る。

大学の周りを見渡すと、新しい街「ふじと台」が発展しつつあり、現在すでに約 1000 世帯が暮らしている。2008 年 10 月 26 日に和歌山大学で実施された子ども祭りの参加者を対象にアンケート調査を行ったところ、調査をした人の実に 92%の人が、大学の施設の空き時間を利用してスポーツを実施することを望んでいることが分かった。さらに学生にとっても、この活動を通して様々な「力」が身に付き、自分自身も大学周辺の地域を構成している「地域住民の一人」なんだということに気づくきっかけになると考えられる。以上のことから、大学施設の空き時間を利用して地域住民と学生が交流しながらスポーツを実施できる環境を作ることは地域にとっても学生にとってもメリットのあることだと考えられる。

○目標

この活動が浸透し、地域・大学の双方に理解されると他の様々な活動とのリンクが考えられ、地域と大学の往還的連携の実現が可能になると考えられる。[2]

現在、学生が中心になって行っているクラブ運営についても、地域住民と学生が分担し

あって「自分たちの地域のため」に行うという意識が生まれることが期待される。

　そのために、より多くの地域住民や学生に活動を知ってもらい、考えを理解してもらうことと同時に、大学にもこの活動を理解してもらう。そして、何よりこの活動が定着することを今年度の最大の目標とする。

[1]総合型地域スポーツクラブ普及啓発用パンフレット，日本体育協会.
[2]黒須充（2007）総合型地域スポーツクラブの時代　第１巻　部活とクラブとの協働，創文企画，p.35.

２．現在までの活動とその感想

【スポーツフェスタ】

・第１回スポーツフェスタ　2008/12/23　「いろいろスポーツ」
・第２回スポーツフェスタ　2009/2/22　「親子あそび」
・第３回スポーツフェスタ　2009/4/26　「ドッヂボール・学内ウォーキング」
・第４回スポーツフェスタ　2009/5/31　「わくわくリレー大会・大人エクササイズ」
・第５回スポーツフェスタ　2009/6/21「ウォークラリー」
・第６回スポーツフェスタ　2009/8/23「フライングディスクで遊ぼう」
・第７回スポーツフェスタ　2009/9/20「ドッヂビー」
・第８回スポーツフェスタ　2009/10/25「秋の大運動会」
・第 9 回スポーツフェスタ　2009/11/23「スポーツラリー（サッカー・陸上ホッケー・バレーボール)」
・第 10 回スポーツフェスタ　2009/12/20「大縄とび・ドッジボール」
・第 11 回スポーツフェスタ　2010/1/24「餅つき・凧つくり」
・第 12 回スポーツフェスタ　2010/2/27「よさこい体験」

　スポーツフェスタは現在、月に１回の頻度で行っており、今までドッジボールやバレーボールなどの身近なスポーツはもちろん、凧上げや陸上ホッケー、よさこいなど幅広いスポーツを企画しています。また、保護者の方を対象としたエクササイズなどもあります。

２時間という限られた時間ですが、白熱したゲームや、満面の笑顔など、子供たちの様々な表情を見ることができたり、スタッフ自身も一緒に参加したりして楽しんでいます。

（大谷）

【特別企画】

・陸上教室　2009/12/10,3,17,19

・チョコ作り教室　2010/2/13

週２回の陸上教室を１ヶ月行い毎回 10 人程度の子どもたちが参加してくれました。初日は京都テレビの番組が取材に来て、森脇健司さんに走り方を教えてもらったり一緒に走ったりと、貴重な経験が出来て走ることに楽しさを感じた初日でした。その後、走・投・跳を体験し、この １ ヶ月で陸上競技に興味を持ち、身体を動かすことに楽しさを感じてもらうことのできたものになりました。バレンタインデー企画では、男の子も女の子もチョコレート作りに一生懸命になっていました。このように、スポーツフェスタに加え特別企画を今後も行い、大人から子どもまで、出来るだけたくさんの人と様々な経験が一緒に出来る企画をしていきたいと思います。

（石川）

【あいさつ運動】

毎月３日間、朝７時２０分から８時までスポーツフェスタのビラ回収を兼ねてあいさつ運動を行っています。回数を重ね、今や子どもたち、出勤中のお父さん・お母さんとも顔なじみとなり、あいさつ運動は地域の中でも浸透した wadai クラブの活動となりました。あいさつを元気よく返してくれる子どもたちからは、いつも私たちが元気をもらっており、スポーツフェスタを楽しみにしてくれている話を聞くと嬉しくなります。あいさつ運動を通しても交流が深まっていると感じています。

（内田）

【近隣小学校との連携】

・貴志小学校訪問　2009/9/30

レクリエーションの紹介

wadai クラブが中心となって、ゲームなどの運動を先生方と一緒に行い紹介しました。この活動を通して、wadai クラブの活動を知るきっかけをつくることができたと同時に、先生方にいろいろな運動の紹介にも繋がり、wadai クラブと近隣小学校との相互関係を築いていく第一歩になったと思います。

（森下）

【和歌山市子どもの体力向上支援事業　野崎西小学校】

・親子マラソン　2009/12/12

・親子体力測定　2010/1/30

・なわとび大会　2010/2/27

和歌山市の事業の一環として、小学校・育友会・地域が連携して、子どもの体力を向上させるというモデル事業が提案され、その「地域」の部分で私たち wadai クラブが「総合型地域スポーツクラブ」として着目されて、協力することになりました。

「親子マラソン」と「なわとび大会」では、当日に参加して補助を行うというサポート役として協力しましたが、「親子体力測定」では、小学校の育友会の保護者の方たちと連携

をとりながら、私たちが企画をしました。その時に、普段とは違った体力測定になるように、そして親子でできる測定や今後学校でも簡単に行えるような測定になるように工夫しました。当日は、親子で楽しみながら測定をしてくれる姿や、何度も記録にチャレンジする姿が見ることができました。

（月森）

３．結果と成果

〇結果

現在までの結果としては、計 12 回のスポーツフェスタを開催し、地域住民の参加人数は延べ 349 名に上っている。学生の取り組みも熱心になり、運営もスムーズになってきている。今後も学生への募集を継続して大きな輪にしたいと考えている。さらに、活動が新聞に掲載される（2009.6.27　わかやま新報、2009.10.29　わかやま新報）など、社会からの注目も集めている。2009 年 11 月 14 日に行われた「わかやま自主研究フェスティバル」でも佳作に入選し、教育委員会賞という特別賞も受賞するなど、活動を公の場でアピールすることもできた。

〇成果

現在までの成果としては、毎月行っているスポーツフェスタの参加している地域住民の約 43%が 2 回以上参加しおり、多い人で全 12 回のうち 6 回も参加しているという状況でリピーターが増加している。参加者の感想にも「もっと地域に浸透すればいいのに」や「フェスタを通じて顔見知りが増えた」ということば出てきていることからその成果が伺える。さらに、参加者の中から、「次はこんなことがしたい」という提案を出してくれるようになり、参加者への浸透を感じることもできる。そして、また、学生の取り組みも回を増すごとに積極的になり、現在では、各役割で自主的に話し合いを設け、運営についてもしっかりと先を見据えた取り組みを行えていると感じる。そして、自分たちだけではなく、体育会の運動部や、サークルなどとの連携も実現させることができ、普段、学内だけで活動しているような運動部や、サークルの学生も地域住民と交流を持つことができた。さらに地域住民にとっても、普段見る機会の少ない、スポーツを体験し、大学生の現役選手の生の

プレーを見ることができ、スポーツを身近に感じる機会となった。

４．今後の展開

〇反省点

現在まで活動を行ってきて、見えていきた問題点がいくつかある。まず、活動への理解についてである。スポーツフェスタを毎月行うことで、参加者には少しずつ理解してもらえるようになってきているが、地域住民との話し合いの場と呼べるものを設けることができなかった。次に、学生中心で行っているため、スタッフの入れ替わりがあり「引き継ぎ」という面でも問題点が見えてきた。

さらに、総合型地域スポーツクラブとして、地域住民と学生が一緒になって活動を継続していくためには、クラブとして「設立」するということも現実的な目標として掲げる必要を感じた。

〇対応策及び今後の活動

現在、毎月行っているスポーツフェスタなどの活動は今後も継続して行い、新たに各種目での「教室」も開催していく予定である。さらに、問題点でも挙げたように地域住民との話し合いの場を設けることができなかったということを踏まえ、今後は積極的に話し合いの場を設けることによって、スポーツフェスタなどの活動に地域住民の意見を反映させていけるようにし、加えて活動への十分な理解も得たいと考えている。具体的には、地域住民を対象として説明会をふじと台で行うことや、地域住民に普段の学生の話し合いの場に入ってもらって、一緒に企画を考えてもらうなどということが案として出ている。

スタッフの入れ替わりについては、今後も wadai クラブが継続して活動していくために「引き継ぎ」のできる組織作りが重要になるということが分かり、上の学年から下の学年に引き継いでいけるようなシステムを確立させる方法を現在、模索している最中である。また、組織作りと共に活動を自分たちで積極的に発信していくことで大学からの理解も得られるのではないかと考えている。

「設立」については多くの課題があり、大学の理解と協力が必要であると考えられる。大学の地域へのサービスで止まることなく、「学生と地域住民」「大学と地域」がお互いにお互いのことを理解し協力し合える関係のもと活動を行うためには、両者がクラブを運営しているということが重要になると考えられる。そのような自立した活動を、大学施設を利用して行うということを理解してもらう必要があると考えられる。